

腎疾患対策における全体目標について

腎疾患対策検討会報告書 平成20年3月

(今後の腎疾患対策のあり方について)

- 目標

- 腎機能異常の重症化を防止し、慢性腎不全による透析導入への進行を阻止し新規透析導入患者を減少させること。
- さらに、CKDに伴う循環器系疾患(脳血管疾患、心筋梗塞等)の発症を抑制すること。

全体目標について

全体目標に関して頂いた主なご意見

- 10年前に掲げた「透析導入患者の減少」はシンボリックな事象ではあるが、今回は広い視野で、医療の最適化がイメージできる目標設定が望ましいのではないか。
- CKD患者は、自覚症状に乏しいため、早期発見、早期治療が重要ではないか。
- CKD全体に対する、良質で適切な医療の提供を目標とすべきではないか。
- QOLの維持向上も目標とすべきではないか。
- 重症化を防止すること、緊急透析を減らすことが重要ではないか。



全体目標案

自覚症状に乏しい慢性腎臓病（CKD）を早期に診断し、良質で適切な治療を早期から継続することにより、CKD重症化予防の徹底とともに、CKD患者のQOLの維持向上を目標とする。

全体目標のKPI(案)

- ・新規透析導入患者数を、5年後(2023年)までに2018年比で〇%減少させる。
- ・10年後(2028年)までに〇%減少させる。